

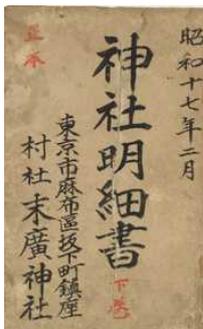
「麻布十番秋まつり」 はじまりのお話



村の鎮守の神さまの 今日ほめでたい 御祭日 ドンドン
ンヒャララ〜♪。この唱歌をご存じの方も少なくなっ
てまいりましたが、地元で盛り上がる御祭と言えば、やは
り神社の御祭でしょう。毎年商店街でも「麻布十番秋ま
つり」が行われており、楽しみにしてくださっている方
も多いのではないのでしょうか。

さて、ところでこの「秋まつり」。どこの神社の御祭
であるかご存じでしょうか。麻布十番商店街区域の神さまは、麻布氷川神社と十番稻荷神
社です（※一部、芝大神宮）。両社の例祭日（神社にとって一番大事な御祭日）が一緒な
ので、商店街も一緒になって地域の御祭として行っているのですね。

それでは、なぜ両社の例祭日は一緒なのでしょう。偶然？収穫期だから？いやいや、そ
うではありません。大正十一年になるまで両社は例祭日が違い、町が一体となって行う御
祭はありませんでした。例祭日を変更したエピソードが当社前身の末廣神社(戦後、合併
して十番稻荷神社となった)から伝わる『末廣神社明細書』にあるのでご紹介しましょう。



当社大祭八従来六月十日、十一日ノ両日二有之候処氏子区域内二小学校
ノ設置無キガ為当社大祭当日ト云ヘドモ小学児童ノ休暇ナキハ敬神思想
ノ上ヨリモ多年遺憾ノ事二考ヘ居リ候（中略）享保十三年九月十七日十
八日ノ両日八当時御本殿改築落成ヲ告ゲ（中略）当神社二取りテハ永遠
二記念スベキ日柄トモ相考ヘ（中略）尚九月十六日十七日ハ恰モ一本松
町氷川神社ノ大祭二候ヘバ小学校休業二相成候為当社氏子ノ児童モ同様
休暇相成候事故本年ヨリ断然 九月十七日（前日祭） 十八日（例大祭）
ノ両日二改正致シ候

末廣神社の氏子区域に小学校が無く、例祭日に休校にならないので、子どもが参加でき
ない事を残念に思っていた。麻布氷川神社は氏子区域に小学校があったので、例祭日は休
校となり、子どもが参加できた。江戸時代の末廣神社改築日は神社にとって重要な日であ
る上、麻布氷川神社の例祭日とも被るので、例祭日をごここに変更すれば氏子区域の子ども
達も休校日に末廣神社の御祭に参加できる——ということです。これが、現在まで続く
麻布十番秋まつりの始まりになったのです。昔は神社の御祭日に小学校が休校になったの
ですね。なお、現在のように町会神輿の連合渡御が始まったのは昭和三十年代初頭とのこ
と(以前は氷川神社～十番稻荷の間を練り歩くルートでした)。

現在では神社の祭だからといって学校や会社を休みにすることは難しいので、皆さんが
参加しやすいように、定められた例祭日に近い土日に御祭を行うところが多くなっていま
す。十番でも九月十七日前後の土日に御祭が行われるようになり、商店街や町内会の山車、
子供神輿に大勢の子ども達が参加しています。

今も昔も御祭の主役はやはり子ども達なのですね。